

Pianoduo Duo'er

04年ドイツにて結成。
マンハイム音楽大学大
学院ソロ科 ピアノデュ
オ科を最優秀修了。日
本、欧米各地にてデュ
オリサイタルを開催、こ
れまでに踏んだステー
ジは400を超え、高い
評価を受けている。

©武藤章



最新CD『カルナヴァル!』NAT NAT13361 ¥2,700+税
[曲目] ラヴェル：《マ・メール ロワ》(連弾) / デュカス：《魔法使いの弟子》(2
台) / サン＝サーンス(ガーバン編)：《動物の謝肉祭》(連弾)

『ドウオール“次の10年へ”』

9月27日(土) 14:00 シェ モザー
問 ビティナかつらぎステーション 075-621-6339
10月19日(日) 13:30 宗次ホール
問 宗次ホールチケットセンター 052-265-1718
10月25日(土) 17:00 青山音楽記念館パロクザール
(公財) 青山財団助成公演
問 青山音楽記念館 075-393-0011
11月13日(木) 19:00 津田ホール
津田ホール協賛公演
問 ミリオンコンサート協会 03-3501-5638

デュオインタビュ&レッスン

「ピアノデュオって、どんな感じ? ソロとは違うの?」

現役で活躍しているピアノデュオ2組に、それぞれ2台ピアノ、連弾を受け持っていたらダビュ、そして誌上レッスンをしてもらいました(もちろん、普段はどちらも、2台ピアノでも連弾でも活動していらっやいます)。参考音源も紹介してありますので、ぜひ2台ピアノの世界に入ってみてください!

2004年にドイツで結成

された、藤井隆史さんと白水

芳枝さんによる『ピアノデュオ

ドウオール』。お互いにソロの

大学院課程を終えた時に、マ

ンハイム音楽大学大学院にピ

アノデュオ科があることを知り、2人そろっ

て勉強を、と進学したという。

「図書館で楽譜を調べてみたらピアノデュオ

の楽譜がものすごくたくさんあって、自分は

ちがピアノのことを知っているようで、実は

全然知らなかったことに気づかされ、勉強を

してみたい! という気持ちになりました」

(藤井さん)

「当初は、これまでソロをたくさん練習して

きたのに、デュオってこんなに大変なんだ、

と苦労することばかりでしたが、今では言わ

なくても合わせるタイミングなどがわかって

きて、音楽そのものを感じながら練習できる

時間が増えてきました。そういう意味で

は、やればやるほど楽しくなってきました

ね」(白水さん)

今回の特集にあたり、おふたりには「2

台ピアノ」を担当していただくことに。2台

ピアノは、ステージでは向かい合わせに配置

し、客席から見ると左が第1ピアノ、右が第

2ピアノとなり、手前側の第2ピアノの反響

板を外す。

「第2ピアノの低音が客席に 番近く、聴こ
えすぎるのではと最初は思いましたが、第1

ピアノデュオ ドウオール

文 写真(*) ©編集部 坂井孝著

2台ピアノ編

ピアノの反響板に2台分の音
を当てることになるのでうま
く響かせることができるんで
す。2台のピアノの位置に
よって、音に 体感が生まれ
り、分離して聴こえたりと、

まったく変わってくるので、ホールの響きに
よって調整することもあります」(白水さん)

「スタジオで2台横並びばかりで練習してい
ると、いきなりホールで向かい合わせになっ
た時に、隣にパートナーがいらないので、息遣

いも目での合図にも距離が生まれ、音の響き
方もまったく変わりますので、怖いことだら

けなのです。普段から向かい合わせの環境で
練習することが望ましいですね。私たちも、

最初の頃は経済的に苦しかったですが
(笑)、ホールを借りての練習は今でもしてい

ます」(藤井さん)

いろいろと大変そうな2台ピアノだが、そ
の魅力は?

「連弾と比べると、ソロのようにお互いがそ
れぞれのピアノを自由に使えて、その中から

音が重なって交わっていくところですね。自
分の音だけではなく、離れた2人の間で音

楽を感じ、響きを作り出すことはとても難
しいです。それだけに、音楽が 体となった

時のうれしさは格別です」(白水さん)

「自分が弾いている以外の音も自分のものの
ように感じられ、自分が音楽の 部と感じら
れるのが2台の楽しみですね」(藤井)

譜例 1

Très vite et gai (à 1 temps sans aucun rubato) $\text{♩} = 84$

第1ピアノ *p sec*
sans pédale

第2ピアノ *f*

第1ピアノ 伴奏からメロディーへの切り替えに注意

第2ピアノ オクターブ上の伴奏は抑えて

2台ピアノ 誌上レッスン

フランシス・プーランク作曲
〈シテール島への船出〉
(2台ピアノのためのワルツ-ミュゼット)

白水 この曲は映画『アメリカ旅行』の挿入曲の1つとして書かれたもので、ドビュッシーの〈喜びの島〉でも知られるワトローの同名の絵とは直接関係はないと言われています。最初のセクションでのメロディーが何度か登場し、その間でさまざまな表情を見せる曲です。

藤井 どんな雰囲気イメージするか、お互い意識を統しておくことが大事です。私たちは1人の人がメロディーを弾いているようにイメージしていますが、2人がまったく違うキャラクタ

クターを出していくのも可能だと思います。弾くだけなら比較的やさしいレベルですが、香り付け、ワルツの感じを出すのは難しい曲です。それではポイントをしぼって見ていきましょう。

メロディーと伴奏の バランスを考える

藤井 メロディーを交互に渡していくのですが、たとえば8小節目から9小節目にかけての第1ピアノ、8小節目

ずっと伴奏をしてからメロディーに入るのは意外と切り替えしづらい。伴奏からメロディーに入る時にしっかり切り替えて、メロディーの1拍目をはっきりさせましょう【譜例1】。伴奏は2拍目と3拍目の重音が重くなってしまう人が多いですが、それだとワルツ-ミュゼットになりません。このミュゼットは軽やかなものだと僕は思います。バスの1拍目とメロディーだけで音楽ができていますので、2拍目と3拍目の重音の伴奏は全体のバランスをよく聴いて軽く弾いてください。2台ピアノを弾くうえで、ハーモニーはとても重要なのです。

このセクションの最後、16小

フレーズの最後をどうするか話しておく

譜例 2

このセクションの最後、16小節目【譜例2】は、rit.するの、かそのまま進むのか、前もって話し合ひましょう。デュオの演奏を聴いているとフレーズの最後がばらばらとすることが多いのです。意識してお互いの肩を見るとき、弾いた手を、相手が上げるところまでよく見て合わせてほしいですね。

白水 【譜例1】9小節目で第2ピアノは伴奏になります、弱拍を両手で弾いているのと、メロディーより高い音で伴奏があることから飛び出てしまいや

譜例 3



譜例 4



譜例 5



すいすい。全体をよく聴いて抑えましょう。

藤井 いくら抑えたつもりでも、9小節目のところは単音のメロディーに対して伴奏は4つ音が鳴っている。自分はpにしているつもりでも相手に対してpなのかどうかということですね。

プーランクらしい

響きを楽しむ

藤井 17小節目からのセクションの最後はプーランクらしいですね(【譜例3】)。2台ピアノならではの楽しみで、長い音の響きの中に、第1ピアノ

の右手が色を入れる。香水が漂う感じ

白水 このセクションはメロディーの層が厚いので、メロディーばかり所懸命弾いてしまうと単にうるさいだけの音楽になりがちです。勇気を持ってバスをしつかりと鳴らすことで、メロディーが調和されてバランスよくひとつのハーモニーが生まれます。

藤井 バスとメロディーの組み合わせだけで最初は練習されるとよいと思います。33小節目からは伴奏にソプラノの装飾が入りますが(【譜例4】、これも【譜例1】)9小節目で言ったことと同じで、音域がメロディーより上にあ

るので、お互いソロの感覚で弾いてしまうとキンキンうるさくなってしまいます。特に第1ピアノが伴奏になるところはffが書いてありますが、ここは楽譜通りではなく、相手のメロディーを飾る鈴のようにイメージしましょう。

白水 47〜48小節目(【譜例5】)はどちらがメロディーだと思えますか？

藤井 処理できないようなモヤモヤした感じがプーランクっぽいところかなと思います。

白水 私たちは第1ピアノが次のセクションのメロディーにつながるのかなと思って、高い位置にある第2ピアノ



を抑えています。こういうのは話し合わないで、お互い自分がメロディーだと思ってしまいます。どちらもメロディーと考えられるので、イメージに合わせてバランスを考えましょう。こういうところは演奏者のセンスが光ります。たとえば音量にしても、fと書かれてあるからといって、緒に強く弾いたらバランスが崩れてしまう。「ふたり合わせてf」と考えると良いですね。

藤井 〴〵ふたりでフォルテというの

譜例 6

第1ピアノ *f* だからといって強くすると

第2ピアノのメロディーが埋もれるので注意!



譜例 7

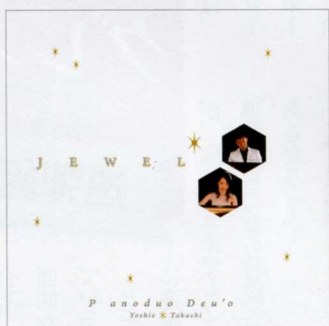
第2ピアノ 伴奏はできるだけ小さくする



très léger

参考に
しょう!

レッスン曲
収録CD



『JEWEL』

NAT NAT1121 ¥2,667+税

【曲目】 ブーランク：(シテール島への船出) / ドビュシー：(牧神の午後への変奏曲) (ドビュシー自身による2台ピアノ版) / ショパン (グールド&シェフター編)：幻想即興曲、他

白水 この伴奏はウナコルダでできるだけ弱く、ひっそりとするね。

白水 お互によく話し合って、相手の音をよく聴いて、2台で1つのハーモニーを作りあげましょう。

は変わりますが、全体のこととして、ワルツだからという理由で1拍目をきちんと弾くことだけを考えて3拍目がおざなりになることがあります。拍感でがんじがらめになってしまいそうで難しいのですが、3拍目を合わせる意識も大事です。3拍目を耳の端で聴いて1拍目につなげると言いますか。

白水 この曲の勉強を始めた当初は、テンポを揺らさないでメトロノームにぴったりと合わせる練習もしました。藤井 これがすつこくつまらない(笑)。

白水 つまらないのですが、基本的なテンポを知ること大事なんですよ。

フランス音楽の

軽やかさを忘れずに

藤井 97小節目からはまた違った世界が始まります。ここはメロディーが和音になっていきますが、単なる和音の連続になってしまわないように気をつけましょう。できるだけ指でレガートをつけ、和音のバランスを整える。

白水 第2ピアノは伴奏ですが、第1ピアノが持続音のところで弱拍の和音の変化をさりげなく強調したり、【譜例3】のような香り付けの部分を響かせたりと、2台ピアノらしさを味わえ

ますね。

藤井 この最後の部分、125小節目からですが【譜例6】、第2ピアノのメロディーが上行して、第1ピアノは下行形でクレッシェンドしています。

白水 *f* だからといって第1ピアノが出し過ぎると第2ピアノのメロディーが聴こえづらくなってバランスがおかしくなります。突然岩が出てきてぶつかりそうになってしまう感じ(笑)。

藤井 曲の最後にまた最初のメロディーが戻ってきます。ここで受け渡された第1ピアノは変ホ短調になります。【譜例7】、テンポの緩め方など、話し合いが必要ですね。

白水 お互によく話し合って、相手の音をよく聴いて、2台で1つのハーモニーを作りあげましょう。

藤井 最後のセツクはブーランクラしい響きのバランスで、和音を掴むイメージが必要かなと思います。

白水 これは本当に難しく、何度練習してもタイミングがずれるし乾いた感じにならない。この曲全体もそうですが、どれだけ123、123、というワルツのテンポを軽くできるか、ひたすら練習するしかないですね。録音して2人で確認しながら。

藤井 今まで見てきたポインントは、言われたら「ああ」と思うんですが、自分でそれを発見できるかというところ、く難しいと思います。アナリーゼの大切さを教えてくれる曲ですね。